



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業します。

インドネシア政府への抗議デモ 事態收拾急ぐも予断許さず

国会議員への高額な住宅手当をきっかけに、抗議デモが全国に拡大したインドネシア



インドネシアで政府への抗議デモが始まって10日以上がたち、政府や警察は事態の收拾を急いでいますが、デモの参加者は労働者の適正な賃金の確保などの要求が受け入れられなければ、デモを続ける構えで、予断を許さない状況です。インドネシアでは先月25日から議員への高額な手当の支給など政府に対する不満を背景としたデモや、その混乱に乗じた暴動が各地で激化し、地元メディアによりますとこれまでに10人が死亡しました。

首都ジャカルタでは4日、暴動によって壊れたバス停などを修理する作業が行われ、ここ数日は暴動に至るような事態はなくなりましたが、依然として、デモは続いています。地元メディアによりますと、警察は3日、事態の收拾に向け、デモが激化するきっかけになった警察車両によるバイクタクシーの運転手の死亡事案に関わった警察官を免職処分をすることを決めたほか、政府は来年、新たな増税を行わない方針を示しました。それでも、市民の不満は収まっておらず、SNSなどでは政府に対して、死亡事案の真相解明や労働者の適正な賃金の確保を求める声などが強まっています。デモに参加している複数の学生団体は4日NHKの取材に対し「政府が要求を受け入れられなければデモを続けるつもりだ」と話していて、事態が収束に向かうのか予断を許さない状況です。

(NHK ニュース)

みなさんも知っている通り、8月末から9月にかけてジャカルタではデモが過激化しましたね。KOMABAでも授業がオンラインになったり、学校が午前中だけになったりとみなさんの生活にも大きく影響がありましたね。ここまで過激化するのには本当によくありませんが、デモの発端は国会議員が高額な手当を要求したことにあります。国会議員の給与は国民の税金で賄っています。そう考えると国民の不満が高まるのも理解できます。デモと聞くと、日本には関係ないとイメージするかもしれませんが、日本でも戦後、安保闘争や成田空港建設の反対デモがありました。もっと遡ると明治時代の自由民権運動もその一種です。国民がしっかり主張することで国が成長していくこともあります。そういった意味では、今後のインドネシアの成長に期待ですね。かといって、人が傷つくようなデモは断固として反対です。民主主義である以上、平和な話し合いが必要ですね。(長津)